

4…よくあてはまる 3…ややあてはまる 2…あまりあてはまらない 1…全くあてはまらない (評価基準:4と3で80%以上はA、60～80%はB、60%以下はC)

	評価項目	児童	保護者	教師	評価委員	現 状	改 善 ・ 対 策	学校関係者評価委員の意見等
学 ぶ 目 的 意 識 と 学 力 の 向 上	①問題解決的な学習を意欲した授業改善に取り組む。	A	A	A	A	○ ほとんどの項目について、高い評価であった。しかし、「家庭学習の定着」「あいさつ」については、教師の評価が、児童・保護者に比べ低かった。	○ 1時間1時間学習課題を設定し、児童にとって必然性のある授業を構築し、「わかった」「できた」と実感することのできる授業改善にさらに取り組む。	○ 授業に集中している姿が見られた。 ○ 教育機器を活用することで、児童の意欲が高まり、楽しく学習に取り組む姿が見られ良かった。 ○ 校長先生の児童の教育に対する熱い思いが教室のすみずみまで行きわたっており、優れた学校経営がなされている。 ○ 教師は一生懸命に教えようとしている。そして、生徒は全身全霊を傾けてそれを傾けてそれを学びとろうとしているとても良い学びの姿があります。 ○ お手本の宅習ノート拝見しましたが、細かく丁寧にノートに記入されているので、他の生徒の改善に役立ってよいと思う。 ○ 学校教師が常に児童の基礎的・基本的な学力の向上に様々な工夫改善を重ねて取り組んでいると感じる。全国学力調査でも県、全国と同じかそれ以上とのことで努力の成果が表れている。 ○ 読書は思考力や判断力ばかりでなくすべての学力の基礎となると思うので、今後も小学生のときから読書の習慣が身に付くような取組、指導をお願いします。 ○ 家庭学習の定着は習慣化が目標と思っていたが、内容の指導まで課題として取り組んでいることは高く評価したい。 ○ 管理職の先生方も学級の中に入っている指導はとても望ましい。子ども達は多くの先生に接すると、それだけ多くのことを学べるのでうれしいと思う。 ○ 支援の必要な児童にも同様に(より以上に)接していただきたい。 ○ ノーマディアーについて、児童・保護者の反応はどうか知りたい。効果はあがっているのか、意識の変化はあるのか、など。 ○ 学校での学習はきちんとできているようですが、6年間での学力差は家庭学習のやり方に起因するところが多いように思われます。宿題や宅習の出し方の工夫が必要であると思います。あわせて保護者の啓発も必要であると思います。 ○ 各評価項目は、期待できる指導内容である。 ○ 3校合同の学力向上の取組の成果がでてきていると思う。今後も「わかる・できる・鍛える」授業づくりを通して学力の向上を期待します。 ○ 基礎的・基本的な学習の更なる充実を図ってほしい。 ○ 家庭学習は個々の実態は分からないが、宅習の充実を図ってほしい。 ○ 読書する習慣を身に付ける指導、読書活動の推進を図ってほしい。 ○ 将来の夢につながる教育の充実、読書活動・図書館教育の充実を図ってほしい。 ○ 学校と家庭との連携により家庭学習の定着を図り、児童が自ら意欲的に学習に取り組む姿勢への手立てを今後も継続努力してほしい。 ○ 教師は一生懸命に教えようとしている。生徒はそれを真剣に習得しようとしている態度が見受けられました。とても優れた学校経営がなされていると感じました。 ○ どのクラスも大変落ち着いた雰囲気です。学習して良かったです。 ○ 細やかな目標のもと、様々な取組を家庭と連携しながらなされていて、とてもよいことだと思います。校長先生の温かい思いのある学校経営で、子ども達がさらに幸せに成長してほしいと思いました。
	②基礎的・基本的な内容の定着を図り、単元テストの平均80点を目標とする。	A	A	A	A	○ 日々の授業の中で、指導方法の工夫改善を行い取り組んでいるが、苦手意識をもっている児童に対する指導が十分とはいえない。 ○ 単元テストの平均点は、全学級ほぼ80点以上である。	○ スモールステップで授業を進めたり、朝の学習の時間を使って単元の前にレディネスをそろえたりするなどの手立てを工夫する。 ○ 教育機器を活用した授業を多く実践し、児童の学習意欲を高める工夫を行っている。今後は、児童一人一人の学習意欲を喚起する手立てを工夫していく。	
	③思考力・判断力・表現力を高める手立てを工夫する。	A	A	A	A	○ 毎週木曜日の業前にスタディタイムを設定し、専科や管理職も学級に入り複数の教員で国語と算数を中心に指導を行っている。 ○ 算数少数指導や社会・理科の教科担任制など、指導体制の工夫を継続実践してきた。	○ 1時間の授業を大切にすため、始業時刻を守ることを徹底し、授業時間と休み時間の違いを理解させることを通して、メリハリのある学校生活を過ごせるようにしていく。 ○ Web単元学習など読解力や思考力を育てる問題に引き続き取り組む。	
	④学び方を学ぶ学習習慣の形成を図る。	A	A	A	A		○ 思考力・判断力育成のため、業前の読書活動を続けるとともに、読書量を増やす取組を今後も続ける。 ○ CRTテストの結果を各学年・学級ごとに分析し、改善策について全体で話し合い、効果のあった取組については、他の学年でも取り組む。	
	⑤全国学力・学習状況調査、みやざき総合学力調査、CRTテスト等を分析し、徹底した繰り返し指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図る。	A	A	A	A	○ 「全国学力・学習状況調査」(6月4日実施)においては全国・県の平均点とほぼ同じ、「みやざき小中学校学習状況調査」(5年9月実施)では、国語・算数・理科・社会の4教科とも県の平均点を上回っている。 ○ 教育的支援の必要な児童に対して、特別支援コーディネーターを中心に学級担任が個別の支援計画等を作成して、児童の実態に応じた手立てをとっている。また、全職員で共通理解を図り、全職員で支援できる体制をとっている。	○ 教育的配慮・支援の必要な児童については、全職員での見守り・支援を今後も続けていく。	
	⑥個を生かす指導を充実(特別支援教育の推進)する。	A	A	A	A	○ 「家庭教育の手引き」(生目台中校区3校合同で作成)を年度当初に各学級で指導を行った後に5月の参観日に保護者に説明をして全家庭に配付し、全校で家庭学習の定着について取り組んでいる。ほとんどの児童が家庭学習に取り組んでいるが、内容面で不十分な児童も多く、習慣化していない(言われて)児童もいる。 ○ 小中一貫教育の取組で、生目台中校区3校の児童生徒の宅習ノートを年2回掲示して、望ましい宅習の仕方の意識付けを図っている。また、感想を掲示された児童生徒に返すことで、意欲も高まっている。	○ 全児童に宅習の習慣化ができるように、引き続き家庭の協力を得ながら全校で取り組んでいく。また、毎月1回実施しているノーマディアーも引き続き取り組んでいく。	
	⑦家庭学習の定着を図る手立てを工夫する。	A	A	B	A		○ 宅習の内容面についての指導も各学級で引き続き行っていく。	
自 立 と 自 律 の 心 を 養 っ	①教師自身の人権感覚を磨く。	A	A	A	A		○ 今後も人権に関する研修を実施し、職員の人権感覚を高めたい。 ○ 道徳の参観授業については、家庭と一体となった道徳教育を推進していく上で今後も継続していく。 ○ 教師自ら素敵な言葉のシャワーを意識して使い、児童の意識を更に高める。 ○ きちんと「くん、さん」を付けて友だちを呼ぶように繰り返し指導を行う。 ○ Q-Uテストを全学年で実施し、その結果を児童の人間関係の醸成や学級経営に生かす。 ○ 児童が学級への所属感や自己肯定感をもてるような学級経営を進めていく。	○ 「道徳の参観授業」は、保護者との共通理解を深めるためにも良い取組だと思う。 ○ 「教師自ら素敵な言葉のシャワーを意識して使う」取組は、児童のモデルとなり良いことだと思う。 ○ 「いじめ0をめざす」取組については、今後も早期発見・早期対応に努められ、児童が相談しやすい環境づくりを継続してほしい。 ○ 小学生の間は、くん・さんづけで呼んでいたのに中学校に入ると急に友だちを呼び捨てになるようです。それが親しい表現でもあるようです。 ○ 「相手より先にあいさつができることを称賛する指導は素晴らしいと思います。大人もそうありたいです。 ○ 子どもがいじめの発信をできる機会が増えることはきっかけが大事なことでとてもよい、見逃しがないように願いたい。 ○ 「あいさつ運動」の取組は、毎朝登校時に校長先生自ら校門前で指導をしているので、その充実した指導を高く評価したい。 ○ 人権や思いやり、いじめ防止活動の取組は大事で、しっかり取り組んでいるが、基本的な決まり、マナーを守る指導を目標として取り組んでほしい。特に、登下校の距離が短く必要とらない交通ルールは、自然に身に付かないため学校での指導が必要ではないかと感じる。 ○ 学校生活よりも家庭での生活(親子関係、兄弟関係家族の形など)が子どもを悩ませていることが多いので、そのあたりの心の中をひき出せるようなアンケート・相談も入れていただきたい。 ○ 問題を抱えている家庭・児童に対して、学校という範疇でできる事とできない事の事実をきちんと伝えることが必要であると思います。学校がまるがかえしてしまと、卒業後に課題がより大きくなってしまふ事が多いように思われます。 ○ お互いを認め合う活動の推進、あいさつ指導、教育環境の充実が図られている。 ○ 生活の乱れが心の乱れにつながるよう、規則正しい生活がはかまわぬよう観察しながら、いい事・悪い事が正しく判断できる児童の育成を期待したい。 ○ いじめ防止・いじめ根絶の取組や啓発を通して、組織的な取組がなされての効果を発揮してほしい。
	②思いやりのある言葉かけを心がける。	A	A	A	A	○ 10月の参観日に、全学級で道徳の参観授業を行い、家庭と一体となった道徳教育を推進している。 ○ 6月・11月・1月のいじめ根絶週間に合わせて、生活目標を「正しい言葉づかいをしよう」にして、「呼び捨てをしない。丁寧な言葉をつかう。」ことを指導している。合わせて、教師自ら素敵な言葉のシャワーを常に意識して使っている。		
	③互いの人権を尊重し、認め合い響き合える人間関係が築けるようにする。	A	A	A	A			
	④自分の思いを伝え、友達思いを受け止める。	A	A	A	A	○ 学級であいさつ指導を行い、児童会が中心になって登校時に校門前で「あいさつ運動」を取り組んでいる。しかし、個人差が大きい。毎朝の校門でのあいさつが元気よくできている児童は多いが、それ以外の時間帯・場面でのあいさつ・会話がもう少しであったため、児童・保護者の評価は高いが、教師の評価は低くなっている。	○ 相手より先にあいさつができる児童を称賛する取組を続けて、相手より先にあいさつができる児童を増やしていく。	
	⑤自分から進んで気持ちよいあいさつをする。	A	A	B	A	○ 「ほげんだより」(毎月発行)で、健康や生活習慣に関する事項の啓発を行っている。	○ 「すこやかアンケート」や教育相談等でのいじめの早期発見・早期対応に努める。解決にあたっては、特定の職員が抱え込むことのないよう、学年や学校全体で組織的に迅速に対応するようにする。	
	⑥家庭と連携した基本的な生活習慣の定着を図る。	A	A	A	A	○ 「いじめ防止基本方針」の見直しを全職員で行い、いじめの早期発見のためのアンケート「すこやかアンケート」を10月から毎月実施することにした。 ○ いじめ根絶週間を設定し、「全学級でいじめ根絶の標語とポスター作成(6月)」「校内掲示用『ありがとうの風船』の作成(11月)」「異学年とのふれあい活動(1月)」を全校で取り組んでいる。	○ いじめに関しては、「生目台西小学校いじめ防止基本方針」に基づいて対応することを全職員共通認識している。また、いじめ根絶週間を年3回設定し、児童が作成した「いじめに関する標語」や全学級で作成した「ありがとうカード」(学級の友だちに感謝の気持ちを伝えるメッセージカード)の掲示や異学年とのふれあい活動などに取り組み、児童の意識付けを図っていく。	
	⑦いじめ0や不登校0をめざす。	A	A	A	A			

未来を生き抜く精神力と体力	①早寝、早起き、朝ごはんなど規則正しい生活のリズムで生活する。	B	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の「規則正しい生活のリズム」の評価が低い。 ○ 夏休みに、「早寝、早起き、朝ごはん」「歯みがき」のチェックカードを配付して親子で取り組ませた。また、意識を高めるために、よい取組みを校内に掲示した。「早起き、朝ごはん」についてはほとんどの家庭で定着しているが、朝ごはんの内容は今一歩である。朝食抜きや夜更かしのため体調不良で保健室に来室する児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保健だより」「学級通信」等で引き続き、「早寝、早起き、朝ごはん」「食」「健康」の大切さを家庭に啓発していく。 ○ 朝食抜きが多い家庭に対しては、家庭との連絡を密にして、児童の実態に応じた対応を行っていく。 ○ むし歯治療率が80%以上になるよう、児童に対して指導を行うとともに、「保健だより」や保健室からの連絡等で保護者に根気強くお願いしていく。 ○ 立腰のルーティーンを作り、授業のはじめに毎時間確認を行う。また、家庭にも伝え、家庭と連携して指導を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「早寝・早起き・朝ごはん」については、気になる児童の実態の把握に努め、今後も家庭への啓発が続けられると良い。 ○ 児童の見守りを先生方が率先して行われ、地域との連携もでき良かった。 ○ 今後も、児童自身に「身を守る」意識付けを継続してほしい。 ○ 「お弁当の日」はとてもしよい取組だと思う。親子で食についての話が増えるのでよい。 ○ ファミリー健康は、子ども・大人に関係なく生きている間、身体を動かし続けていくので1つのきっかけになると思うのでとてもよい。 ○ 自己評価は良くないが、日頃からの立腰生活の取組は大変良いと思うので今後も継続してほしい。 ○ これから成長していく小学生時代は、毎日仲間と楽しく外遊びやスポーツに謙遜することが大事である。その中で、自然に基礎体力を養い、好ましい人間関係を築けるようになると思うので、昼休み時間の屋外遊びの奨励は引き続き取り組んでほしい。(特に、通学距離が短いので) ○ 保護者は何よりも子どものことをいちばんに考えてほしいので様々な啓発活動が必要である。 ○ 各学級だけでなく、縦割り交流もお願いしたい。生目台は子ども会が存在しないので縦のつながりが築きにくい。 ○ 保護者の子育ての意識の変化に対して、PTAの保護者の啓発活動についての取組が弱いように思われます。 ○ 基本的な生活習慣については、大人主体ではなく、子ども主体の生活への切り替えの提案が必要だと思います。 ○ 生活のリズム「早寝、早起き、朝ごはん」を今後とも指導充実させてほしい。 ○ 体力向上と健康推進、指導結果が出ている。 ○ 立腰は体幹を鍛えるトレーニングにもつながるのではと思う。正しい姿勢の意識付けを広めてほしい。 ○ 学級・学年により遊びの内容が偏らないよう体力向上、健康な体づくりを推進してほしい。 ○ 不審者の情報が多くなっているため、登下校時の対応もしっかりと身に付けてほしい。
	②自分の健康について知り、生活を改善しようとする。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中一貫教育の取組で、全学級で授業始めの号令を「立腰」とし、良い姿勢を意識するように指導を行っているが、児童・保護者・教師共に低い評価で、児童に身に付いていない。 ○ 屋外で遊ぶ児童が多いが、遊ぶ内容に偏りが見られ、高学年になるほど屋外で遊ぶ児童と遊ばない児童との差が生まれている。 ○ 体力テストの結果は、握力・立ち幅跳びの記録が伸びているが、50m走については平均以下である。 ○ 新体力テストの結果に基づいた「体力向上プラン」を作成し、体育の時間を中心に、体力の向上を目指して全校で取り組んでいる。(準備運動を兼ねたサーキットレーニングと柔軟体操等の実施、運動量の確保、持久走月間やなわとび月間の実施、チャレンジ遠足) ○ 「自分の身は自分で守る」意識を児童に身に付けるような手立てや方法を工夫し避難訓練(不審者・火災・地震・風水害)を実施している。少しずつ、自分で考えて行動できる児童が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昼休み時間の屋外遊びの奨励を引き続き行っていく。 ○ 昼休みの遊びについて、各学級で様々な遊びを紹介し、遊びが偏らないように工夫する。 ○ 「体力向上プラン」に沿った取組を、体育の時間を中心に継続して取り組んでいく。 ○ 非常時に児童が自分で考えて、いつでも、どこにいても行動ができるような意識付けを今後とも続けるとともに、学校での取組や児童の様子を保護者にも知らせる。 	
	③良い姿勢を意識して(立腰)生活する。	B	B	C	A			
	④積極的に運動に親しむ。	A	A	A	A			
	⑤新体力テストを生かした体力づくりに挑戦する。	A	A	A	A			
	⑥困難に立ち向かうことができるたくましい心を養う。	A	A	A	A			
家庭と連携した生活のリズム	①食に対する正しい知識を身に付ける。	A	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「健康維持のための食」「弁当の日の取組」に関する評価が児童は低い。食に関する関心が低いためだと考えられる。 ○ 「お弁当の日」を設定し、学年に応じた取組を行い、家庭と連携を図った食育を推進していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「親子でおにごりを作る(低学年)」 ・ 「親子でおかずを作る(中学年)」 ・ 「自分でご飯を炊いておにごりを作る。自分でおかずを作る(高学年)」 ○ 「ファミリー健康」と題し、夏休み期間中に親子でテーマ(身体活動や運動、生活習慣、栄養・食生活等)を決めて取り組んだ。今年度は186戸中143戸(76.9%)が実施し、健康に対する意識が定着してきている。 ○ 食事のマナーに関しては、児童の評価は高いが、保護者・教師ともに低い。食事のマナーがきちんと定着していない児童が多いと思われる。 ○ 学校保健委員会を年2回(6月・12月)開催し、子どもの生活習慣等を内容にした研修会を行っている。第1回は、むし歯治療のお願いと「ファミリー健康」の取組についての説明、第2回は、外部講師を招聘して「すこやかな生活」についての講話を行った。学校保健委員会に参加した各学級の代表者がその後の参観日の学級懇談で説明し、全校で取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「保健だより」や「給食便り」を発行し、健康面や食事面からの体づくりについて情報提供を行う。 ○ 家庭科や学級活動の授業をはじめとして給食指導の時間も、「食」の大切さを指導する。給食に関しては、アレルギーをもつ児童には個別に除去食を準備するなどして、安全な給食の提供に心がけているが、今後もさらにチェック体制を厳密にして安全性の向上に努める。 ○ 給食指導については、給食調理員を交えた給食運営委員会で協議し、食に関する指導の充実を図っていく。 ○ 食事のマナーについては、参観日の学級懇談の内容にして保護者に協力を求めるとともに、給食指導の時間を中心に根気強く指導を続けていく。 ○ 児童が弁当を作ることに少しずつ慣れてきているので、来年度は夏休みに「弁当の日」を設定して取り組む。 ○ 学校保健委員会の内容を各学級の代表者がその後の参観日の学級懇談で説明し、全校で取り組むシステムになっているので、来年度も実施する。内容面については、学校の実態や保護者の希望等を考慮して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「お弁当の日」の実施にあたっては、準備することの困難な家庭はないか等の配慮を十分にしている。 ○ 生活のリズムは食事からと、「食」に特化した指導方針を取っていると感じるが、目標設定の理由及び指導結果がどのように出たのかを記述してほしい。 ○ 夏休みに親子で取り組む「ファミリー健康」の取組は非常に良い取組と思う。 ○ 食育に力を注ぐことは3校の課題である。弁当の日を始めたのも、3校ブロック研修会がきっかけであったので、またPTAで何か取り組まれてもよいのではないかと。 ○ 子どもの食に関する意識の低さは、家庭の食生活そのものだと思います。食は生活の基本ですので、PTA活動の中にも食に対する取組等が必要ではないでしょうか。 ○ 学校から保護者への提案が難しいものについては、地域の活用も考えてみられてもよいのではないかと。そのために、地区青少協や社協という組織が地域の中にはあるので。 ○ 食育が生きるための基礎になると思うので、健全な体と心をつくるためにも食の正しい知識や食を選ぶ力、適切な食習慣や食事のマナーを定着してほしい。 ○ 給食指導、食事のマナーについて、今後とも充実を図ってほしい。
	②自分の健康を維持するためのふさわしい食事をする。	B	A	A	A			
	③食事の時のふさわしいマナーを身に付ける。	A	B	B	A			
	④各家庭ならではの「弁当の日」を実践する。	B	A	A	A			
	⑤学校で身に付けた知識や技能を各家庭で実践する。	A	A	A	A			
	⑥食育を推進するための学校保健委員会を充実する。		A	A	A			